

勇往邁進

Vol.18

R7.10.3

港区立御成門学園御成門中学校

☆身近な街のコンサート

身近な街のコンサートが行われました

9月20日（土）の5・6時間目、本校体育館にて「身近な街のコンサート」が開催されました。指揮者の方と毎年ご来校くださる交響楽団の皆さんが、今年も素晴らしい演奏を披露してくださいました。普段はなかなか聴く機会のないオーケストラの生演奏を間近で体感できる貴重な機会となり、生徒たちは会場いっぱいに広がる響きに魅了されました。

演奏はクラシックの名曲から親しみやすい曲まで幅広く、一曲ごとに雰囲気が変わり、心にさまざまな情景が浮かびました。厚みのある音の迫力に、CDや映像では味わえない感動を得ることができました。

途中には「指揮者体験」が行われ、生徒がタクトを振ると楽団がそれに応じて演奏。テンポや強弱で曲が変化していく様子に、生徒も観客も驚きました。堂々と指揮を務める姿に大きな拍手が送られました。学年代表の生徒も堂々とした指揮でした。また、2組学級担任の先生も挑戦し、優しさや迫力を併せ持つ指揮に会場は大いに盛り上がりました。

吹奏楽部の演奏も披露されました。力強いリズムと透き通る音色が体育館に響き渡り、日頃の練習の積み重ねを感じさせる見事な演奏でした。仲間と共に磨き上げてきた成果に、大きな感動を覚えました。

最後は9年生の指揮で全校生徒が校歌を合唱しました。オーケストラとともに歌う校歌は荘厳で、貴重な体験となりました。

今回のコンサートは「音楽の力」や「仲間と共に創る喜び」を実感できる時間となりました。心を動かされた体験を、これからの生活や学習にも生かしてほしいと思います。

【生徒の感想より】

何となく聞いたことがあった曲をじっくりとフルバージョンで聞くことができる機会をいただけてとても良かったです。私はJ-ブラームスのハンガリー舞曲集より第5番がとても気に入ったので、帰ったらYouTubeで聞いたり、背景について自分で詳しく調べてみようと思いました。モルダウでは背景をより知ることによって理解が深まったので、同じようにこの曲の理解もしたいです。

1組

コンサートはとても良かったです。どの曲もとても迫力があり、驚かされました。一番気に入ったものが「白鳥の湖」です。私は昔見たバレエをテーマにした映画が大好きでした。その映画

を「白鳥の湖」を聞いて思い出しました。私は今年でこのコンサートを聴くことができるのが最後ですが、またいつかどこかでオーケストラを聞いてみたいと思います。

2組

今日のコンサートで一番印象に残った演奏はポルカシュネルの「雷鳴と稲妻」です。演奏が始まると雷のような激しい音と、稲妻のように鋭くきらめく音が重なり合い、まるで嵐の中にいるような迫力を感じました。特にリズムの速さや強弱の変化がはっきりしていて、体が自然に動き出しそうになるほど、とても楽しかったです。今回のコンサートを通して改めて音楽には人の心を動かす力があると感じました。

3組

☆未来へと続く生徒会の足跡～生徒会長からの言葉～

9月29日（月）、前期最後の生徒朝礼を迎えました。生徒会長は、これまでの活動を振り返り、次のように語りました。

「この1年間、みなさんの協力のおかげで、公約に向けてたくさんのことに取り組むことができました。本当にありがとうございました。運動会やペンの回収リサイクルなど、少しでも『学校を良くしたい』という思いが形にできて、とてもうれしく思っています。仲間と力を合わせて最後まで走りきれたことは、私にとって大きな経験になりました。

後期からは新しい生徒会にバトンを渡します。ぜひ、これからも生徒会へのご協力をよろしくお願いします。1年間、本当にありがとうございました。」

生徒会役員たちは、より良い学校をつくるために、時には放課後遅くまで話し合いを重ね、懸命に取り組んできました。その努力が、運動会の盛り上がりやペンの回収活動といった目に見える成果として実を結びました。生徒が主体となって学校づくりを進めていく姿は、とても頼もしく、また素晴らしいものでした。生徒会の運営は常に明るく、仲間と笑顔で協力し合う雰囲気に包まれていました。こうした経験は役員だけでなく、学校全体に確かな前進をもたらしてくれました。

このバトンは後期から新しい生徒会に渡されますが、その精神は確実に受け継がれていくことでしょう。そして、今後これまで以上に素敵な御成門中学校へと成長しているに違いありません。前期を締めくくるにふさわしい、心温まる生徒会長の言葉と、生徒会役員全員の努力に、大きな拍手を送りたいと思います。